



生涯現役!

健康・生きがい・社会貢献



設立40周年記念誌

公益社団法人 岐阜市シルバー人材センター

目次

設立 40 周年を迎えて	1
理 事 長	田 中 康 雄
祝 辞	2
岐阜市長	柴 橋 正 直
岐阜市議会議長	谷 藤 錦 司
(公社) 全国シルバー人材センター事業協会会長	金 子 順 一
(公社) 岐阜県シルバー人材センター連合会会長	浅 野 壽
役員のことば	6
地区組織役員のことば	12
職群リーダー等のことば	15
一般会員の声	18
設立 40 周年記念事業鼎談	20
『輝ける未来に向けて』	
設立 40 周年記念第 7 回シニアワークフェア	25
センター活動状況	28
設立 40 周年記念親睦会文化祭	35
親睦会定期部会	38
40 年の歩み	43
事業実績一覧表	47
歴代役員一覧表	53
組織図	54
センターシンボルマーク・キャッチフレーズの決定	56
編集後記	57
シルバー人材センター歌	

(表紙題字 岩 8375 細江 善一)



設立40周年を迎えて

理事長

田中 康雄

公益社団法人岐阜市シルバー人材センターでは、令和3（2021）年に設立40周年の記念すべき節目を迎えることができました。

これもひとえに、歴代の理事長さんを始め、役員及び会員の皆さんのご尽力と、岐阜市を始め関係機関やこれまでに業務の発注を頂きました企業、団体及び市民の皆様のお陰であり、心から感謝を申し上げつつ皆様と共に40周年の喜びを表したいと思えます。

さて、岐阜市シルバー人材センターは、昭和56（1981）年1月16日に国の支援制度であります高齢者労働能力活用事業の採択を受け、「シルバー人材センター岐阜市高齢者福祉事業団」として128人の会員により設立されました。

その後、平成25（2013）年4月に社団法人から公益社団法人へと移行し、令和3年3月末には会員数1,989人、年間の受注金額は約7億1,650万円になるなど、紆余曲折はありましたが順調に推移してきました。特に会員数においては、令和2（2020）年3月末には2,016人となり、センター設立後初めて2千人を超えました。

しかし、この頃から世界中を震撼させた新型コロナウイルスの感染拡大によって、国内外の社会経済はこれまでに経験したこともないような大きな影響を受けることになりました。

当センターにおいてもその余波を受け、感染拡大防止の観点から入会説明会やセンター固有の事業であります「地区交流会」、「女性のつどい」、「白山野菜市」など多くの事業や行事が中止又は縮小に追込まれました。中でも会員数は大幅に減少し、令和3年7月末には1,859人まで落ち込むといった事象があったことを後世に伝えていきたいと思えます。

このような不測の事態に見舞われましたが、論語に「温故知新」という言葉がありますように、まさに設立40周年という節目は、会員の皆さんと共に当センターの**過去**を振り返り、**現在**の課題を把握して、**未来**を展望する絶好の機会であり、センターの今後の更なる発展に繋げていくための新たな起点でもあります。

しかし、現状においては、前述の新型コロナウイルスの感染拡大による影響のほかにも、会員の高齢化や「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正により、70歳までの就業機会の確保が企業の努力義務とされたこと、さらには、外国人労働者の受け入れの拡大など、センターを取り巻く環境は依然厳しい状況ではありますが、反面、当センターには40年間培ってきた実績と信頼に加え、知識や経験豊かな多くの優れた会員などセンターが発展する上での力強い原動力があります。

折しも、当センターでは、令和2年10月に「第2次中・長期基本計画書」を策定しました。

この基本計画書は、令和2年度を基軸とするセンターの現況やセンターを取り巻く社会環境の変化、課題や問題点などを取り上げ、それらを踏まえた上で、私たち会員が目指すべき10年後の将来像「元氣と笑顔の絆社会」と、この将来像を実現するための具体的な行動計画を取りまとめています。

人生100年時代といわれる今日、全国のシルバー人材センターが共有している「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもとに、「第2次中・長期基本計画書」の行動計画を推し進めていく中で、センターの発展と私たちの生きがいを探っていくではありませんか。

結びに当たり、記念誌「年輪」の発行、シンボルマーク・キャッチフレーズの創出、記念式典などの一連の事業が有意義かつ盛況に執り行うことができましたことは、周年事業実行委員会の皆さんのご尽力と関係各位のご支援、ご指導によるものであり、心からお礼を申し上げますとともに、会員皆さんの今後ますますのご活躍とご健勝を祈念しご挨拶いたします。



祝 辞

岐阜市長

柴 橋 正 直

公益社団法人岐阜市シルバー人材センターが設立40周年を迎えられましたことに、心よりお祝いを申し上げます。

貴センターは、昭和56年に設立されて以来、40年の長きにわたり積極的に活動され、高齢者の生きがいづくりと、本市の活性化に貢献されたことに深く敬意を表するものであります。

人口減少・少子高齢化の進展に伴い、労働力不足が深刻化する中、国は令和3年4月から、事業主に対し70歳までの定年引上げ等を努力義務としました。今後、高齢者の皆様が長年培ってきた豊富な知識・経験・技能を活かし、様々な分野で活躍されることが益々重要となってまいります。

そうした中「令和3年版高齢社会白書」によりますと、約85%の方が収入を伴う仕事をしたいと回答しており、高齢者の皆様の高い就業意欲がうかがえます。

こうした働く意欲の高い高齢者の皆様に労働の機会を提供する貴センターの役割は大変重要であり、これからも会員数及び就業分野を拡大し、より魅力的な事業展開を図られますことを大いに期待しております。

本市といたしましても、高齢者の皆様が豊かな知識や能力を生かし、就業のみに留まらず、本市を支える一員として、幅広く社会に参画・貢献していただけるよう、今後とも貴センターを支援して参りたいと考えております。

最後になりましたが、公益社団法人岐阜市シルバー人材センターの益々のご発展と会員の皆様のご健康、ご多幸を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

岐阜市議会議長

谷 藤 錦 司

このたび、公益社団法人岐阜市シルバー人材センターが記念すべき設立40周年を迎えられ、記念誌が発刊されるにあたりまして、岐阜市議会を代表して一言お祝いを申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和56年の設立以来、本市の高齢者の方々の就業機会の確保や生きがい・健康づくりを担う中核的な組織として、着実に実績を重ね、発展を遂げられておりますことは、理事長をはじめ会員の皆様の並々ならぬご努力の賜物と深く敬意を表するものであります。

ご承知のとおり、貴センターが設立30周年を迎えられました平成23年に23.3%であった我が国の高齢化率は、令和2年には28.8%に達しており、世界に類を見ない速さで高齢化が進んでおります。本市も例外ではなく、高齢化率は国と同じ水準で推移しており、少子化も相まって、近い将来、3人に1人が65歳以上の高齢者となることが確実視されるなど、高齢化はさらに進展していく見込みです。

このような中、働く意欲にあふれ、長年にわたって培ってこられた豊富な知識や技能、経験を有する高齢者の方々は、いまや地域経済を牽引し、活力に満ちた社会を維持していくのになくてはならない存在となっており、貴センターが果たす役割は今後ますます大きくなるものと思います。

設立40周年を契機として、貴センターがさらに大きく飛躍され、今後とも、社会参加を希望される高齢者の方々と地域社会を繋ぐコーディネート役として、活力ある地域社会づくりに力強いお力添えをくださいますようお願い申し上げます。

併せて、会員の皆様方におかれましても、地域社会の発展により一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、貴センターのますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



設立40周年を祝して

公益社団法人 全国シルバー人材センター事業協会
会長 金子 順一

公益社団法人岐阜市シルバー人材センターが設立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和56年の設立以来、40年の長きにわたり、「自主・自立、共働・共助」の理念の下、地域の高齢者の方々が長年培ってきた豊富な知識や経験、技能を生かした就業機会の提供や、地域社会活動への積極的な参加を推進することにより、生きがいの充実と地域社会の福祉の向上に大きく貢献されておられることに対し、深く敬意を表します。

人口減少、少子高齢化が進行する我が国において、シルバー人材センター事業の重要性と、シルバー人材センターに向けられる地域社会の期待は一層大きなものとなっています。

こうした地域社会の期待に応えるためにも、現在、新型コロナウイルス感染症拡大という厳しい状況下にはありますが、引き続き、シルバー人材センターが、地域の高齢者の受け皿としての機能を十分果たし、地域社会の支え手を実践できるよう、お力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。

結びに、今後の貴センターのより一層のご発展と関係者各位のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

公益社団法人 岐阜県シルバー人材センター連合会
会 長 浅 野 壽

公益社団法人岐阜市シルバー人材センター設立40周年、誠におめでとうございます。

貴センターは、昭和56年に県下シルバー人材センターの先駆けとして設立され、以来40年が経過し、今日に至っております。

わたくしも、この間、理事長職等を通じ、15年有余関わることができ、とても充実した日々を送ることができ感慨もひとしおです。

幾多の激変する社会経済情勢の下、高齢者の生きがいづくり等を目指し、多くの困難を乗り越え、意欲的な事業拡大がなされ、県都シルバー人材センターとして先駆的に、また、他のシルバー人材センターの範として、たゆまぬ努力を積み重ねられ、地域社会に多大な貢献をしてこられました。

これも一重に会員の皆様方をはじめ、役職員の方々の懸命なご努力、発注者様のご理解、更には関係行政機関のご指導等の賜物と考えております。

本年4月には、企業に70歳までの就業機会の確保の努力義務を課すことなど『高齢法の一部改正』により、シルバー人材センターにとっては、会員入会の減と高齢化など影響があることも考えられます。

また、人口減少、少子高齢化が進行する中、令和12年には、高齢化率が31.2%になると見込まれていること、一方、生産年齢人口の減少、少子高齢化の進展等を踏まえ、高齢者の働く場の安定的な確保を図り、生きがいづくり等と併せて、地域の活力を維持するため、高齢者の知識・経験を生かし、地域社会に参加することが重要であり、センターの役割は、大きいものと言わざるを得ないです。

今後とも会員増強を図り、就業開拓の推進などその時代、時代に即した事業展開が必要になってくると考えます。

結びに、岐阜市シルバー人材センターが、県下のリーダーとしてご活躍いただくこと、更には、貴センターの第2次中・長期基本計画に基づき、四方良しとして『お客様良し』、『会員良し』、『地域良し』、『センター良し』の基本理念の下、限りなきご発展を遂げられることをご祈念申し上げ、設立40周年に当たり、お祝いの言葉とします。



役員のことば



副理事長 小川 欽市

岐阜市シルバー人材センターの記念すべき設立40周年に当たり、冒頭に岐阜市をはじめ、当センターの運営にご支援ご協力を賜りました関係各位にお礼を申し上げますとともに、これまでセンターを支えてこられた先輩会員、現会員の皆様に心より感謝を申し上げます。

「十年一昔」と言われますが、近年、1年先が見通せない時代を迎えており、40年という時代の重みを改めて感じています。

テレビのニュースや新聞報道などでは、「コロナ」「災害」「紛争」「難民」などの厳しい言葉が溢れ、少子高齢化という我が国の構造的な問題がさらに追い打ちをかけているようです。

しかしながら、40年という長い歴史の中で、私たちは厳しい時代を何度も乗り越えてきたと思います。このような厳しく苦しい時代だからこそ、長年培った知識と経験を備えた我々シルバー世代が、自ら楽しく生き生きと働く姿を示すことにより、次の世代に明るい未来を託すことができるのではないのでしょうか。

専務理事 田中和弘

昨年は、第2次中長期基本計画を策定しました。そして、今年は、設立40周年を迎えます。そのような節目の時期に事務局職員として、また、理事として関わったことをとても光栄に思います。

社会の生活様式は、昨年から続くコロナ禍により大きく変わりました。設立40周年の今年は、キーワードを「変革」としていますが、大きなかじ取りの変更を余儀なくされています。非常に困難な時代から希望をもって10年後を見据えた時、中長期基本計画は、まさしく岐阜市シルバー人材センターの将来を示す羅針盤となります。10年後、センターがますます発展しているためには、岐阜市シルバー人材センター

の将来像である、「元気と笑顔の絆社会」の実現を目指して中長期基本計画に定められた123個の行動計画を確実に進めていく必要があります。そして、行動計画の進捗状況を会員全員で共有し、確認しながら運営することで、今よりももっと素晴らしい50周年を皆さんと共に迎えられることを願っています。

最後に、個人的な話になりますが、定年後又は現役を退いた後のことを第二の人生と言いますが、私は今、そのスタートラインに立っています。私は、会員の皆さんが現役時代の肩書に縛られず、経験と知識をさりげなく生かして就業し、定期部会活動や役員活動を自分のペースで楽しく行い、しっかりと生き抜いている姿に励まされています。これからも、センターで皆さんと一緒に第二の人生を謳歌したいと思いません。

理事兼事務局長 安江 稔子

設立40周年を迎え、記念の年に事業に参画できる喜びとセンターが築いてきた歴史の重みを深く感じております。

私が事務局職員として歩んできた中で、センターにとって二つの大きな節目がありました。一つは、平成25年4月の公益社団法人への移行です。関係諸機関の皆様から御助言、御指導をいただき、公益法人として適正に運営を進めることができました。今後も公益法人としての責務をしっかりと果たしていく所存です。もう一つは、設立当時128人の会員数が、令和元年度末に2,016人となり、センターが長年目標としてきた2,000人を超えたことです。私は、会員数がセンターにもたらす大きな力を実感しました。

今後、センターは、高齢化の更なる進行、70歳までの就業機会の確保などの影響を受け、厳しい運営を強いられるかもしれません。それで

も、来る50周年を皆さんの笑顔と共に迎えるために、センターが成すべきことは、情勢の変化に柔軟に対応し、存在価値をさらに高めること、そして様々な活動を次の世代に繋ぐことです。私も及ばずながら、センターの一員として力を尽くしていきたいと思います。

金華 6957 川島 聰

シルバー人材センター設立の40年前を振り返るとカラオケで盛んに歌われている『網走番外地』『柔』などがトップ10に入る時代でした。

シルバー人材センターを身近に知ったのは、少子化で今はありませんが岐阜市立金華保育所に私の子どもが通っていた時の事です。手に職をつける時代の腕自慢の指物師であった義父が、頭と腕を鈍らせないためにシルバーに入会して保育所を巡回し、木製の窓枠などを修理して活躍していましたが、盆・正月に顔を合わせると色々なボヤキを聞きました。

今では、IT技術者がC言語を使いこなし、また、平均寿命が延び2045年には100歳以上が38万人と予想され、改正高年齢者雇用安定法が施行され総合支援等がうたわれ、また、労働可能人口が当然ながら伸び、格差への対応が大変な時代となっています。

時代の変化、ミスマッチにどの様に対応するのか、自分自身の年代ギャップについていけるのか？でも、解消の立場にあるのも何かの因縁と感じ微力ながら努力をしてみたいです。

木之本 5815 高見方子

岐阜市シルバー人材センターは、今年、設立40周年を迎えます。10年前といえば、私はまだ入会して間もない頃でした。当時に比べると、『体力・筋力・記憶力などの低下』が目立ち老化を憂うことが多いこの頃です。そんなある日、旧来の友達から【老齡は山登りに似ている。登れば登るほど息切れするが、視野は益々広くなる(イングマール・ベルイマン)】というメールを頂きました。老齡になっても、残された能力

を活かして行動すれば、楽しく素晴らしい生活を送ることができるというメッセージだと思いました。

昨今、世界中で『新型コロナウイルス』が蔓延して、私たちは感染防止のため、外出自粛生活を余儀なくされ、コロナ禍の中で生活様式が大きく変わろうとしています。人との関わりも少なくなり寂しい限りですが、私たちも新しい生活様式を模索していかなければなりません。

昨年、当センター女性委員会の代表が、愛知県シルバー人材センター連合会の女性委員会メンバーと、ZOOMを使ってオンライン会議をしました。当センターでも、今年から職群にIT・通信・事務班ができました。高齢者もコロナ禍の中でスマホ等デジタル化に慣れ、新しいことにチャレンジしていく必要があるのではないのでしょうか。

50周年を迎えるころには、多くの会員がITを駆使して活躍しているのではないかと思うと楽しくなります。会員としてシルバー人材センターの基本理念である『自主・自立、共働・共助』の精神の実現を目指し、会員として“いつまでも自分らしく生きる”をモットーに、『100歳現役』を目指し、有意義に暮らしていけることを願っています。

岩 8375 細江善一

「たかがジャケット、されどジャケット……」

今年地区長となり、シルバーのジャケットをいただいた時、私は思わずつぶやいた。

それ程、このジャケットには思入れがあるのだ。それは父の存在にある。今年94歳になる父は、かつて高山市のシルバー人材センターに登録し、今の私と同じように筆耕の仕事をもたらっていた。帰省するといつもシルバーのジャケットを着た父がいた。いつの間にか私の中で「フリーになったら自分もシルバー」という思いが強くなっていった。

仕事を持っている人の健康寿命は、そうでない人と比べて格段に長いと言われている。シル

バー会員の私たちは自分のために生き生きと働くとともにシルバーのPRをもっとするべきだと思う。まずは家族に、友人に、ご近所に…。かつての自分がそうであったように、次世代の人材が第2第3の人生を考える時、選択肢の一つにできるように。ジャケットは、父から私へのバトンのようなものなのだ。

長森南 7990 児玉洋子

10年前に商売をやめて、5年前に主人を送り一人暮らしになり、ふと主人がシルバー人材センターにお世話になったことを思い出私も会員になり仕事をさせていただきました。大勢の仲間ができ毎日が充実した生活を送らせていただいています。それに、趣味を生かして講座を開き生徒さんと一緒にバタバタとやっています。お陰様で親からもらった丈夫な身体で仕事も60代の人達に負けじと一生懸命働いています。でも、ある日階段を降りる時、その音を聞いて年が分かると笑われました。これから先何年元気で働けるか分かりませんが、100歳まではこの環境の中で一日一日を大事にして生きて行きたいと思います。今、コロナ禍にあって、どう生きれば幸せになれるのでしょうか。私たちの日常の暮らしの中で悩んだり、迷ったり、苦しんだりしながらも幸せに生きたいと願っています。過去を思い出してああすればよかった、これが悪かったと思返さない。これからはどうなるかと心配しないで、今できる行動をしよう。

黒野 5955 高崎一吉

岐阜市シルバー人材センター設立40周年おめでとうございます。センターは、昭和56年1月に設立され平成25年に公益社団法人に移行し、令和3年に40周年を迎えました。

センターを取り巻く社会環境は、日々刻々と変化しており、特に「高齢化社会」の到来は社会的存在であるセンター運営に大きな影響を与えています。

令和3年4月には改正高年齢者雇用安定法が

施行され、希望者が70歳まで働ける機会の確保を企業の努力義務とするなど「70歳現役」社会が到来しつつあります。また、令和3年9月1日には「デジタル庁」が発足し、社会の情報化促進が行われています。今後は、センター業務運営の情報化が必要になります。

人生100年時代の今日、働く意欲と能力のある高齢者が年齢フリー・性別フリーで働くことができる「生涯現役社会」の実現に向けて、また50周年に向けて「元気と笑顔の絆社会」を目標に一生懸命努力する覚悟です。

木田 7762 石田絹子

設立40周年を迎え、この祝福の年に役員の一員として関わることができたことを感謝申し上げます。岐阜市シルバー人材センターは、高齢者の生きがい、就業、仲間作りに寄与する素晴らしい団体です。

特に副地区長に就任してからは、知人も増え、皆様に支えられ、色々な人と会話をし、楽しい時を過ごせています。

しかし、昨年より新型コロナウイルスのため、シニアワークフェアを除き、ほとんどの行事が中止となりました。

地区の方でも、校区ごとの人間関係を深めるため、集まることも考えていましたが、できなくなってしまいました。しかしながら、人と人との繋がりが、大事であることを認識すべきだと思います。この先、いつ終息するのかわかりませんが、今後も共存していくしかありません。

私も入会6年目となりますが、これからもお世話になりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本荘 7185 高橋幸治

満40歳を迎えたシルバー人材センターの歴史の中で、その1/5(8年間)を会員として過ごしてきました。入会と同時に仕事にも就けました。ただ、その職場は、私が望んだ仕事ではありませんでした。しかも、それまで40年

のサラリーマン人生の中でもほとんど経験したことがない人たちと接触する仕事で、もちろん商品知識もゼロの職場でした。当初は不安でしたが“案ずるより生むが易し”の諺どおり、すぐに仕事にも職場にも慣れ8年があっという間に過ぎてしまいました。まだまだ、この仕事をあと4、5年は続けられそうです。

そうした8年間の会員生活の中で、その半分にあたる4年間を南部地区の地区長（理事）として地区のまとめ役をやらせていただいています。こちらの方は、南部12校区をそれぞれまとめる班長、副班長さんの絶大な協力をいただいた上で支障なく続けてこられたと思っております。

今後は、シルバー人材センター50年、60年の歴史づくりに向けて肩肘はらず「テイク・イット・イージー」…気楽にいこうぜ、気楽にね…的な感覚で、自然体で行けたらベストだと思っております。

これからも皆様のご協力をいただきながら頑張っております。よろしく申し上げます。

日置江 6859 青木 由美子

設立40周年という記念すべき年に役員の一員として関わることができた幸せを心より感謝申し上げます。

私は、入会して来年で10年になります。その間スクールバスの添乗見守り、交流センターの受付業務などいろいろな仕事をさせていただいています。

さらに、最近では、野菜の栽培をして「ふれあいの館白山野菜市」に参加しております。金曜日の朝、準備した野菜を持ってふれあいの館白山に行くと、すでにたくさんの方が集まって来てくださっています。時間のある時は、販売の様子を見て、今後どんなものを栽培したら良いかなど次の野菜づくりの参考にしています。

私なりにこれまでの経験や周りの人からいただいた知識を活かすべく、微力ながら役員としてシルバー会員として活動していきたいと思

います。

設立40周年おめでとうございます。

長良西 8053 中島 正和

私が4年前の平成29年4月に入会する前までは、再就職先の退職後で、人生初めて自由気儘に過ごせる毎日が至福の時と思っていました。

しかし、何かしら物足りなさを感じて誘われるまま、センターに入会しましたが、何故今さら仕事をしなければいけないのかという意識が先立ち、センター自体の役割や就業には、ほとんど目もくれない日々でした。

ところが、本年の地区役員改選により、思いもかけず地区長となって活動する中で見聞きしたのは、センターの理念、歴史、活動実績、そして何より、多くの高齢者がセンターを「心の拠り所」として自発的に活動している、しようとしている姿でした。目から鱗が落ちました。センターの存在が、これからの超高齢化社会にとって必要不可欠で掛替えのないものであると確信した次第です。

これまでの40年間、センターの業務に関わられた全ての皆様に敬意と感謝の意を表し、今後も変わらぬご協力とご指導を切に願います。

藍川 7610 永塚 浩子

シルバー人材センター設立40周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

シルバー人材センターのリーダーの方々、代々の理事長始め、役員、事務局職員、そして会員の皆様が一丸となって創意工夫とチャレンジ精神を発揮され、さまざまなご苦勞の結果が今のシルバー人材センターの発展に繋がっていると思います。

今年で入会して7年目を迎えます。趣味のカラオケクラブに入部してお友達もたくさんできた事、色々な仕事、東部クリーンセンターの計量係、学童保育、歩行量調査等仕事の中で大変勉強になったのは、皆さんが趣味を持って、生き生きと仕事に励んでいらっしゃる事でした。

人生 100 年時代 会員を増やし、『仲間と共に 明るく!! 元気で!!』日々を大事に過ごしていく事が私の願望です。「シルバー人材センターで、仕事も趣味も元気 100 倍」を目標に!!

最後に、会員の皆様のご健勝を心より、お祈り申し上げます。

七郷 7226 本 田 敏 郎

岐阜市シルバー人材センター設立 40 周年を迎えるに当たり、先ずはここまで築き上げられ、ご尽力されてきた諸先輩方に心より敬意を表します。

私は、若い頃から庭木剪定に興味があり、自宅の庭木の剪定を行ってきました。定年退職後は、この興味を活用した仕事をしたいとの思いから、暫く造園会社に勤めていました。しかし、勤務は一日仕事であり、体力的に何年も継続できるとは思えませんでした。そこでシルバー人材センターに入会し植木班に所属しました。自分の体調や個人的都合などを踏まえての就業ができ、かつその仕事を通して多くの会員等の方々と出会えたことは大変有意義でした。また作業後、お客様が満足され喜ばれ感謝もされますと、私自身の充実感や達成感にも繋がりました。

このような環境を提供できるシルバー人材センターの存在価値を少しでも高めていけるよう、私はセンター役員として、微力ながら事業・活動に参画して参ります。

島 6729 大 橋 美 紀 子

早いもので入会して約 10 年、主に介護ヘルパーの仕事をさせていただいております。広報で介護資格取得の記事を見て、応募したのが縁で今日に至っております。

利用者様との関わりの中で、「どうしたら喜んでいただけるのか?何を望んでおられるのか?」など私自身も勉強の毎日です。仕事を通じて感じたのは、独り暮らしは気がねなく自由にいられる反面、孤独と向き合う寂しさもあるということでした。利用者様に話をしたり、笑ったり

と発散できる場所があればな…と思いました。

今後、核家族化が進み独り暮らしの高齢者が多くなっていく中、シルバー人材センターの地域社会への貢献は、ますます大切なものになっていくと確信しています。人と人との繋がりの中で、少しでも孤独から抜け出す事ができるならとてもすばらしい事だと思います。

コロナ禍での設立 40 周年、制約もあり大変ですが、シルバー人材センターの発展を心から願っております。私も会員の一人として、これからも皆さんと共に頑張っていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

日置江 7859 牧 野 泰

岐阜市シルバー人材センターは、社会参加への意識が高い人々が集い、福祉(=幸福)の増進に寄与するために設立され、高齢者が「福祉の受け手」から「社会の担い手」となり地域社会に貢献することを目的に、様々な事業を実施してきました。

同時に就業・社会参加活動により、会員に生きがいの充実を図る機会を提供してきました。

『真の贅沢は、人間関係の贅沢』とも言われますが、就労、親睦会、公園・河川敷の清掃奉仕活動等を通じて、他では得られない人々とのつながりや思い出に残る人間関係を築き、充実した日々を送った方も多いのではないのでしょうか。

少子高齢化が急速に進み、高齢化社会の抱える諸問題が山積しています。

岐阜市シルバー人材センターが、これからも高齢者の豊富な経験と強み(勤勉・丁寧など)を活かす社会的需要の掘り起こしや、現役勤労世代への子育て・介護支援等により、地域社会の発展に寄与し続けていくよう祈念しております。

岩野田 8935 三 間 導 雄

68歳の誕生日に10歳の孫娘からバースデーカードをもらいました。「パパママの時も私の還暦祝いの時も元気でいてね」と書かれておりま

した。さすがに難題だと感じましたが、気持ちが嬉しかったのと「人生100年時代到来」かと痛感したところでありました。

ところで、現役時代従事された仕事内容が大幅に多様化し、多彩なスキルを有した方々が一線から離脱しています。健康思考と時間の有効活用を望む人が増加しています。ものすごい勢いです。これらの人々の援助の一翼を担うのが当センターでしょう。

無理のない時間帯・場所で、できる仕事・やりたい仕事・やってみたい仕事を掘り起こし、会員の皆さんの意向とマッチングさせることができる組織であり続け、次の10年、50周年に向けて皆で盛り上げていきましょう。

役員名簿

役職名	氏名	備考
理事長	田中康雄	
副理事長	小川欽市	
専務理事	田中和弘	
理事	安江稔子	事務局長
//	川島聰	中央地区長
//	高見方子	中央副地区長
//	細江善一	東部地区長
//	児玉洋子	東部副地区長
//	高崎一吉	西部地区長
//	石田絹子	西部副地区長
//	高橋幸治	南部地区長
//	青木由美子	南部副地区長
//	中島正和	北部地区長
//	永塚浩子	北部副地区長
//	本田敏郎	職群代表
//	大橋美紀子	職群代表
監事	牧野泰	
//	三間導雄	

任期 令和3年5月31日から令和5年度定時総会の終結の時まで



後列左から、高崎、石田、高橋、青木、三間、牧野、中島、永塚、本田
前列左から、川島、高見、安江局長、小川副理事長、田中理事長、田中専務、細江、児玉、大橋



地区組織役員のことば



本郷 7474 津田 勉

岐阜市シルバー人材センターの設立40周年に当たり、心よりお祝い申し上げます。

私が当センターに入会して早くも7年になり、最初は金華山の登山道巡視、タウン誌ギフトの配布などに就業しました。

それから2年後には、校区班長をお受けすることになり現在に至っています。

定年後、急に自由な時間が手に入り何をしてもよいか分からなくなってしまった時期を経て、社会と関わりを持つこと、できれば何か社会に役立ちたいと思い、当センターに入会したことを思い出します。

一番の喜びは、お客様や校区会員の皆さんからの「ありがとう」の言葉です。

これが励みになり、「よし頑張るぞ」と力が入ります。

人に喜ばれ、頼りにされることに働く喜びを感じます。

一度だけの人生、多くの体験をして人生を面白く豊かなものにしたいと、今後も就業は勿論のこと、校区班長として組織活動にも積極的に取り組んでまいります。

芥見東 7016 岡庭 勇

シルバー人材センター設立40周年おめでとうございます。

私のシルバー入会動機は、シルバーは仕事があり、部活もあることで、人生が有意義に暮らしていけると思い入会いたしました。

東部地区芥見東校区班長を引き継ぎ、現在に至っております。

シルバーでの最初の活動は、東部クリーンセンターで就業させていただき、7年間従事してまいりました。

現在は、百年公園でトイレの掃除、東屋の清掃作業に従事し、その他タウン誌ギフトの配布、

シルバーニュースの配布をしています。

今年で83才。至極健康で、現在シルバーで働かせていただけますことに感謝申し上げ健康維持のため、仕事以外の日には里山でウォーキング後、畑仕事をしています。

毎月第1、第2日曜日には山登り。毎週火曜日、金曜日にはテニス。日曜日、水曜日には卓球。さらには、シルバー民謡部会で月2回活動しています。

今後の目標は、皆さんといろいろな活動に積極的に参加し、喜びを分かち合いながら健康を維持し、50周年を目標として頑張りますのでよろしく願いいたします。

早田 3298 増田 敏明

シルバー人材センター設立40年を迎え、早いもので仕事を辞めて、先輩からセンターを紹介いただき入会して21年を迎えました。

異業種の先輩方と仕事、各行事、親睦会、地区会員との交流等で仲間入りさせていただき、またゴルフ部会では、大勢のお友達に出会い今現在も若い世代の方々と歳を忘れてゴルフを楽しむ素敵な時間を過ごさせていただいています。

これもセンターのお陰と、改めて感謝しています。昨年からコロナ感染症まん延防止が宣言され、ワクチン接種も進んできましたが、感染予防を続けて、これからも健康でセンターの一員として地域への貢献と会員の皆様と生涯現役で過ごせるよう、センターの発展のため頑張ります。

厚見 8269 林 美鈴

市の広報でシルバー人材センターの入会説明の案内を見たのは、主人の母の介護を終えたころでした。その場で入会し、掃除の紹介を受け、始めました。タウン誌ギフトの配布も、天気予報を気にしながら自身の体力の維持のためと思

い頑張っています。もう一つ除草の仕事、猛暑の中も熱中症に注意して、お茶を飲み、塩あめを含み頑張っています。

入会して2年が過ぎた頃、センターの中ではまだまだ半人前なのに、令和2年の春、南部厚見校区の班長を依頼され、どんな仕事をするのかも分からないまま受けました。去年今年とコロナ禍でセンターの行事も縮小、中止が多く班長の仕事も少なくなっていると思いますが、先日の役員研修会で班長方々の経験発表を聞き、シルバーニュース配布の折など会員の方に行事の案内や仕事の話などできるよう努力したいと思いました。センターで働く皆さんの明るさ、元気に力をいただいております。仕事に出かけられることが楽しみであり幸せであり、感謝です。

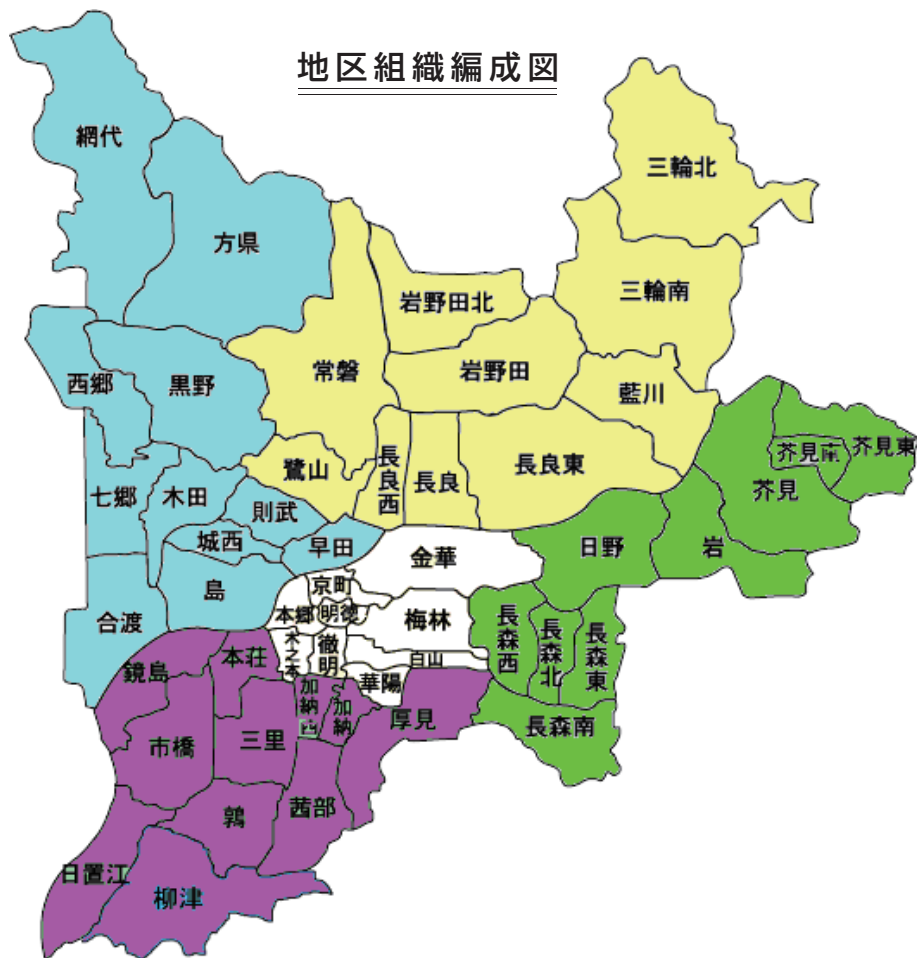
岩野田 6777 川田 弘子

岐阜に嫁ぎ50余年、三田洞の山桜、長良川の流れなど岐阜の自然の良さを身に染みて感

じ、子育て、会社員生活の定年を迎え、ヘルパー2級を取得後、シルバー人材センターにて仕事、趣味、友達との出会いという機会をいただき、第二の人生の出発点となりました。何にしても年齢の近い方々との出会いがとても楽しく、また嬉しく、元気が出て、話がはずみ、まさに充実した日々を過ごさせていただいております。

仕事としては、ヘルパーにて訪問介護で自分よりもっと人生経験のある方々とのふれ合いがあり、人生勉強をさせてもらいながら配分金をいただいております。また、楽しみとしては、グラウンドゴルフに参加させていただき体力の保持、友人との会話で知力、体力の低下を少しでも防げるのではと思っております。少しでも長く、この状態が続けられますよう、病気（今はコロナ禍）怪我をしないように願いながら毎日充実した日々をとっております。シルバー人材センターありがとうございます！

地区組織編成図



地区組織役員名簿

地区	班	班 長	副 班 長		
中 央	金 華	加 藤 幸 通	大 野 昭 子		
	京 町	城 隆 美	牧 村 百合子		
	明 徳	永 井 誠 三			
	徹 明	和 田 司			
	梅 林	山 口 貴 弘	村 瀬 琴 子		
	白 山	野々田 進 吉	服 部 二三子		
	華 陽	鈴 木 実	服 部 裕 子		
	本 郷	津 田 勉	中 村 千代美		
	木 之 本	鈴 木 政 則	飯 沼 千加子		
東 部	日 野	和 田 公 久	和 田 昭 雄		
	長 森 東	澤 田 一 男	石 田 武 行		
	長 森 南	高 林 利 温	小野木 良 和		
	長 森 北	平 工 孝 幸	鈴 木 優		
	長 森 西	中 島 幸 雄			
	岩	柏 木 勝 次	蓑 島 英 行		
	芥 見	森 孝 義	藤 村 浩 史		
	芥 見 東	岡 庭 勇	梶 本 嘉 伸		
	芥 見 南	國 井 武	佐 野 克 己		
西 部	島	大 橋 四 郎	服 部 秀 雄		
	早 田	増 田 敏 明	赤 堀 義 雄		
	城 西	森 島 成 享	後 藤 光 国		
	則 武	田 中 藤 夫	坪 井 雅 信		
	黒 野	高 崎 一 吉	森 和 子		
	方 県	諸 橋 潔			
	網 代	神 山 正 司			
	西 郷	溝 添 昭 吾	吉 田 静 郎		
	七 郷	本 田 敏 郎	高 木 伸 子		
南 部	合 渡	小 林 悟	坂 上 恭 子		
	本 荘	西 野 國 男	長 沼 朱 実	大 橋 澄 枝	
	三 里	木 原 治 郎	川 口 幸 雄		
	加 納 東	小 島 鈴 雄	足 立 希伊子		
	加 納 西	松 波 佑三郎	細 江 隆 夫		
	茜 部	嵯峨崎 明 宏	東 屋 勝 行		
	鶉	櫻 谷 將	亀 山 隆 行		
	市 橋	野々村 慶 隆	長 崎 勇		
	鏡 島	小 川 隆	田 口 鉦 三	大 西 章 夫	
	厚 見	林 美 鈴	山 中 信 孝	安 田 嘉 明	
	日 置 江	田 中 公 一			
	柳 津 西	河 村 嘉 郎	安 田 雅 博		
	柳 津 東	田 村 鐘 平	安 田 印 勇	棚 橋 秀 男	
北 部	班	班 長			副 班 長
	長 良	井 川 孝 則	野 田 誠 一		
	長 良 西	平 塚 昭 夫	藤 田 孝	大 野 薫	
	長 良 東	長 屋 守 夫	藤 垣 正 之		林 晃
	鷲 山	江 尾 静 香	森 節 子		
	常 磐	黒 田 弘	松 井 重 之		内 藤 薫
	岩 野 田	川 田 弘 子	村 山 喜美子		早 矢 仕 愛 巳
	岩 野 田 北	中 原 悟	後 藤 才 司		山 田 和 子
	藍 川	永 井 義 昭	杉 本 優		
	三 輪 南	岩 田 達 男	渡 辺 八 郎		
三 輪 北					

令和3年10月1日現在



職群リーダー等のことば



屋内外作業班 常磐 5609 戸本 光昭

この度は、岐阜市シルバー人材センター設立40周年おめでとうございます。早いもので私も建築業を辞めこちらに会員登録をさせてもらって10数年になります。北部のリーダーに誘われて除草班で色々教わり、勉強しながら仕事をさせてもらってきました。そして、数年前からリーダーをさせてもらっています。現場に加え受注票の整備などもあり大変ですが、班員はもちろん、事務局の方々の協力を得ながら頑張っています。現場では天候の都合で予定どおり行かず、班員には無理をお願いすることも度々あるので本当に感謝しています。また、仕事を終え依頼者から「ありがとうございます、今後もよろしく」という言葉に疲れも忘れ笑顔になります。

健康に気を付けこれからも頑張れるようにと思います。私たちを必要としてくださる方のニーズに応えられるセンターとして50周年を迎えられるように、センターの益々の発展を祈りつつ頑張っていきたいと思っています。

植木班 加納東 5147 後藤 孝行

当時センターの理事であった方に勧められ、平成18年にセンターに入会と同時に植木班に所属、今年で15年6か月になります。平成26年から、事務所からの依頼で新規の剪定申し込み、リピートのお客様の再見積もりを行っています。以下、剪定依頼のお客様の変り様を述べたいと思います。現在依頼される方は、70歳から80歳の方が大半で、さらにその庭が造られたのはその方の両親の時代で築60年から70年経っています。一戸建てを新築すれば、日本庭園を造るのが当たり前の時代の産物です。管理する人がいなくなれば空家となり樹木が生い茂り、近隣の人に迷惑をかけることになります。依頼人の方から、今のうちに一部伐採、全部伐

採したいがどうすれば良いか、相談を受けることがあります。その相談に乗り、適切なアドバイスをすることも植木班の役割だと思いますし、仕事の増加にも繋がると思います。最後に植木班の益々の発展を祈ります。

襖班 白山 5068 堀江 宣良

「シルバー人材センターで見つけた生き甲斐」

私がシルバー人材センターに入会したのは平成17年10月で、今年16年目を迎えます。月日の経つのは実に早いものだと、今更ながら驚いています。私は、第一線を平成16年8月に42年間勤務した銀行を定年退職し、以後1年間、自由気ままな生活をしておりました。これでは第二の人生が有意義に過ごせないと考え、もう一度自分なりに社会参加のできる道はないだろうかと考えておりました。そんな思いを強く抱いていたところ、シルバー人材センターに入会のチャンスが得られ、第二の人生の仕事として、少しでも社会に役立つことが、生き甲斐であると考え、会員として今、楽しく働かせていただいております。私は、平成22年に、襖班のリーダーに就任し、今年で11年目になります。リーダーの役割は、会員相互の和を第一に考え、仕事の段取りを決め、受注先との日程等の打ち合わせ、会員への電話連絡、更に受注明細書の計算、事務所との連携作業等があります。襖班は、室内作業係10人と集配送係4人の14人で構成しております。室内作業係は、刃物を使用しますので、怪我をしないよう特に注意しています。集配送係は、一日中自動車を運転するため、安全運転には十分注意しています。今後も、50周年に向かって、引き続き県下シルバー人材センターの先駆的かつ指導的な活力ある襖班を目指して、お客様に喜ばれる業務を考え、美しく、早く、丁寧をモットーとして、魅力ある襖班を構築していきたいと思っています。

観光ガイド班

長良西 6505 松井博之

早いもので、もう40周年になるのですね。私たち観光ガイド班（おんさい案内人）は、平成6年に誕生し今年で27年目です。その間2度にわたり岐阜県観光連盟から観光功労者表彰をいただいています（最近は今和3年6月28日）。徐々に認められて来たと同喜んでいます。今は、コロナ禍でガイドはほとんどありませんが、この間に内部研鑽をしっかりと行い力を蓄えたいと思っています。観光ガイドは平和産業の一端ですし、その多寡は経済の動きと連動します。現在15名の会員ですが、超高齢化が進み実戦力は6人程度です。会員の増加が待たれます。今後も「おもてなしの心」でお客様に満足していただけることをモットーに頑張ります。

これからのガイドには、例えば石垣について詳しい方、建築学から見て岐阜城の特徴は？との専門性が問われますし、グローバル化も更に進展します。これらが今後の課題です。

駐輪場管理班 市橋 6355 角田安瞭 「駐輪場の管理人の一員として」

西岐阜駅が誕生したのが昭和61年だったと記憶しています。当時、この地域は、まだ農地が多く閑散としたたたずまいでありました。当地域は、県庁の玄関口でもあり西岐阜駅が誕生したことにより年々人口が増えていきました。ということは通勤する人、通学する人が増えることにつながっていきます。西岐阜駅を利用する乗客も徐々に増えていき、通勤・通学客が乗ってくる自転車の置き場で高架下は混雑するようになりました。その自転車を整理する人もいなくて、高架下は繁雑をきわめ、雑然と置かれている状態が続いていました。

通勤・通学時間との関係もあり道路から前輪のみ突っ込み、半分以上は道路に出ているような止め方で、見るも無残な姿が永年続いておりました。

そのため、県庁所在地の玄関口として内外の

要人の出入りもあり、そのまま放置してはあまりにもはずかしいし、みっともないので駐輪場を作らなければならなくなったのでしょう。高架下だけでは足りず民地も借り上げ駐輪場が整備されました。

それから10年の月日が過ぎました。今では駐輪場内も整理整頓ができ、見ても気持ちのいい場所となっております。

駐輪場の使命は、言うまでもなく利用者の人にどうしたら気持ちよく使っていただけるのかの一点につきると思います。常に笑顔で接し喜んでいただけることを目標としています。

私は、平成23年4月の開設以来管理人としてたずさわってきました。西岐阜駅には南・北2か所の駐輪場がありほぼ同程度の規模であります。

管理人は南・北25名ずつ1日10名が3交代のシフトで勤務しています。

朝4時半駐輪場着、5時開門、6時頃になると出入りが始まり8時半頃まで相当数の人が出入りし、ピーク時には、目茶苦茶忙しくなります。

お客様には、「お早うございます」「いってらっしゃい」「お気を付けて」帰りは、「ありがとう」「おやすみなさい」の声かけを大事にして接しております。

仕事の大小にかかわらず、全力で考え、全力で行動することを肝に命じて、初めて自分の存在に納得できるものと信じております。

さらに、将来にわたって駐輪場が続くかぎり、このような気持ちを忘れずに頑張っていきたい。

小物販売班 京町 5717 麻生洋子

私は、シルバーの会員として、13年前から柳ヶ瀬サロンでお客様の接待とレジの仕事をさせてもらいました。私は、ミシンが好きなので、エプロンや洋服、小物を作って、買ってもらえる喜びとサロンの会員さんやお客様とのコミュニケーションがとても楽しみでした。

4年前、柳ヶ瀬地内に小物販売班が中心となって運営する「手づくりショップ ちえぶくろ」を

出店することになり私は班長として関わってきました。多くの皆様に支えられ現在に至っております。「ちえぶくろ」は現在22人で運営しています。手芸の好きな会員さん、是非出店してください。売れる喜びは、自分の活動力になります。会員さんのセンスとアイデアで、和の物、洋の物、季節を題した小物など店に並べたいです。

「ちえぶくろ」に行くと、安くておもしろい商品があり、見るだけでも楽しいよって、言っただけのお店にしたいです。それには会員同士が輪になり、売り上げ向上につなげていきたいです。

IT・通信・事務班

藍川 5947 山田 晃平

コロナ禍で活動が制限されているこの年、シルバーが40周年となりました。人生40歳代は、仕事、生活面など一番充実し、精力的にこなしてきた時だったと思います。

シルバーも40年、これから大いに新しいことにチャレンジし、50周年を迎えたいと思います。

私は12年前に、第二の人生を有意義に、生活にメリハリをと思い入会、いろいろ仕事をしてまいりました。一方パソコンクラブにも席を置き、勉強中です。

そんな折、今年5月に、新しく「IT・通信・事務班」として職群が発足し、代表となりました。私自身、まだIT・通信について力不足ですが、班員皆様に指導いただき進めてまいる所存です。

最近加入された会員の方の中には、コンピューター関係に精通された方々がおられ、この班に登録されました。専門知識を活かした仕事と考えられ、この分野の仕事受注が拡大していくことを期待します。

また、40周年記念誌発刊の仕事に班として携わっていますが、事務分野の仕事はコロナの収束待ちの状況であります。

職群リーダー等名簿

職 群 班	氏 名	
屋内外作業班	リーダー(全域)	川上 常夫
	リーダー(東部)	大前 直孝
	リーダー(南部)	河合 康男
	リーダー(北部)	戸本 光昭
	サブリーダー(全域)	平井 定男
	サブリーダー(東部)	赤地 哲司
	サブリーダー(西部)	神山 正司
	サブリーダー(北部)	藤垣 正之
植 木 班	リ ー ダ ー	本 田 敏 郎
	指 導 者	後 藤 孝 行
	指 導 者	野々田 進吉
	指 導 者	戸本 芳春
	指 導 者	衣笠 信夫
	指 導 者	小 塩 仁
	指 導 者	北川 五男
襖 班	リ ー ダ ー	堀 江 宣 良
観光ガイド班	リ ー ダ ー	松 井 博 之
駐 輪 場 管 理 班	リ ー ダ ー	角 田 安 瞭
	リ ー ダ ー	高 橋 正 英
	サ ブ リ ー ダ ー	橋 本 浩 子
	サ ブ リ ー ダ ー	長 縄 司 郎
小 物 販 売 班	リ ー ダ ー	麻 生 洋 子
	サ ブ リ ー ダ ー	河 合 庵
IT・通信・事務班	リ ー ダ ー	山 田 晃 平

令和3年10月1日現在



一般会員の声



白山 2155 足立 正子

平成8年、77歳の時にシルバーに入会して、私は今101歳と8か月です。この私がセンターに何かのお役にたてるものならと今回の「会員の声」を引き受けさせていただきました。

入会後初めての仕事は問屋町で、その後いろいろな仕事をいただきました。同じころ一緒に仕事をした仲間のことが懐かしく思い出されます。

センターの活動では、春・秋の岐阜公園や岐阜駅での清掃活動が私の楽しみで、いずれの時も参加しました。青いビニールシートを敷き楽しくおしゃべりをして、にぎやかだった思い出があります。

特に嬉しかった思い出は、安全標語で表彰していただいたことです。その安全標語は「確認は自信があってももう一度」です。そして、昨年1月にはセンターの「ぶらっと」において皆様のご尽力により満100歳記念の作品展を開催することができました。皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

シルバーは歳をとってからの参加の場です。

歳をとっても元気であること、シルバーの皆さんが「定年のないシルバー」で元気で朗らかに毎日を過ごされることを念じてやみません。

長森南 7699 谷村 文子

シルバー人材センター設立40周年おめでとうございます。

私は、平成27年に入会し、すぐに有料老人ホームの清掃に携わりました。掃除する事で自分の心がきれいになっていくのと同時に周りの人から「ありがとう」と声をかけられ感謝される事がとても嬉しい経験になりました。

また、平成29年からシルバーの理事を4年間させていただき、仕事と役員との両立は自分でも驚くほど、充実した毎日でした。これも皆様の暖かい励ましと協力のおかげだと感謝しております。

今は、親睦会の書道部会、民謡部会に参加させていただいています。書道では101歳の足立正子さんの精神を見習い、民謡では三味線、尺八の音色に合わせ皆と合唱し楽しんでます。

今後50周年に向かっては、高齢化が進みシルバーの活躍も増えるでしょう。そうした中、まずシルバーの門を叩き仕事や趣味を見つけ、友となり仲間となって輪が広がり一人でも多くの方と寄り添えるシルバーを期待します。

則武 4004 國 枝 みち子

岐阜市シルバー人材センター設立40周年おめでとうございます。

私は、縫製業を生業としてきましたが、時代の変化とともに仕事も少なくなり、さてどうしようかと考えておりました。その時に介護の資格が取れる講習があることを知り、早速申し込みました。介護講習を受講して無事に2級の資格を取得することができました。

この御縁で岐阜市シルバー人材センターに入会させていただき、約20年間介護の仕事一筋でやってきました。岐阜市シルバー人材センターには、本当にお世話になり感謝しかありません。

また、現在は、タウン誌「G I F U T O」の



各戸配布もしております。

私事ですが、平成27年度から2期4年間西部地区副地区長をさせていただきました。私にとってかけがえのない経験と思い出になりました。

岐阜市シルバー人材センターの50周年に向けた、更なる発展を御祈念申し上げます。

三里 4033 江崎 糸子

定年退職後「介護ヘルパー2級」の資格を得た私は、ヘルパーとしてシルバーに入会しました。資格取得の際、介護衣料（介護する人、される人のための衣料）を勉強したこと、また、洋裁・手作り・小物作りが好きだったこともあって、手作り部12年、柳ヶ瀬サロン10年、その間理事会の運営に6年お手伝いさせていただき、事務所、会員の皆様に感謝の20年目を迎えました。

この20年を振り返り、柳ヶ瀬サロンの思い出は生涯忘れることができません。全国的にも初めてのシルバー会員手作り品売り場としてオープンし、会員や市民の方の憩いの場オアシスでした。

自作の物が商品として売れるという会員同士の共通の喜びは、制作意欲、絆を深め、今も連絡を取り合い励まし合っています。また、南部でのお仕事では、「放課後児童クラブ」の仕事がありました。南部は校区が多く、しかも女性会員に限ることもありその人員確保と配置調整に苦労しましたが、子供たちの笑顔に全てを忘れたものです。

今は「ぶらっと」に出品していますが、生涯現役を目指し細く長く頑張りたいです。



長良西 1639 篠田 隆夫

シルバー人材センター設立40周年の記念誌を発刊するという。思えば30周年の時も寄せた。90歳の仲間の少ない様変りが淋しい。10年ひと昔、IT革命で世界は激変。アナログからデジタルへ。キャッシュレスのカード時代だ。思わぬ国難と呼ばれるコロナ禍で「働き方」までが先が見えない社会の変遷である。

我々のモットーである生涯現役の市場は消えた。しかし、歴史は繰り返す。今こそ原点に立ち返って人間の使命感を果たす時である。設立当時のパイオニアをもう一度目指す時だ。

- 1 観光事業として「おんさい案内人」全国発信
- 2 シニア賛歌シルバー人材センター歌作詞制定
- 3 夫婦共働、社会秩序の貢献に寄与した
- 4 親睦会、文化使節として市民活動フェスティバルの確立
- 5 歴史の記録自分史「ふゆうがき」6刊、市史に残した
- 6 老人クラブの対抗馬、現役生涯の象徴

コロナ禍に課題は多い。高齢者の健全なる社会の担い手として、若者に負けない元気な一翼として新賛歌を声高らかに唱い上げよう。



設立 40 周年記念事業 鼎談 『輝ける未来に向けて』

出席のみなさま

岐阜市長
(公社) 岐阜市シルバー人材センター
(公社) 岐阜市シルバー人材センター
(公社) 岐阜市シルバー人材センター

柴橋正直様
理事長 田中康雄
女性委員会委員長 高見方子
副理事長 小川欽市 (司会進行)

(司会)

それでは、鼎談を始めさせていただきます。

初めに、設立 40 年の過去を振り返り岐阜市シルバー人材センターの基本的な方針や岐阜市との連携について、皆様の思いやお考えを伺いたいと思います。

(市長)



まずは、設立 40 周年おめでとうございます。

これも皆様をはじめ多くの先輩方がこのシルバー人材センターの活動をしっかりとリードし、継承していただいたおかげであります。また、すでに超高齢社会を迎えている中で、高齢者の方の活躍の場所、居場所づくりという観点からも、このシルバー人材センターが果たすべき役割は大変大きいと思いますので、これからも事業発展に努めていただきたいと思います。

私は、昭和 54 年生まれですが、その 1 年後、シルバー人材センター設立 1 年前の昭和 55 年に岐阜市役所の福祉部に設立準備事務局が置かれました。まさに我々行政とシルバー人材センターが二人三脚で高齢者の方の、活躍の場づくりを始めたということです。また、皆様方には、当時から岐阜公園の清掃奉仕活動を続けてきていただいております。会員の皆さんがいくつになられても地域社会に貢献し、支えていただいていることは、ありがたいことだと思っています。

また、シルバー人材センターの皆さんの活躍の場として、市営の有料駐輪場を管理していただい

ております。朝も早く、夜も終電まで管理していただいていますから、お仕事などで遅い時間に帰ってこられる方も安心して家路につけています。

一方、そこで働いている会員の方からも、「利用者とコミュニケーションをとりながら働くことで、自分たちの活躍できる場があると感じる。市民の方に喜んでいただけることが生きがいになる」とお聞きしており、とてもうれしく思っております。今後も、是非そういう場を大切にしながら会員の皆さんの出番を作ってほしいと思っています。

皆さん、会員拡大についても非常に意欲的ですし、2,000 人を超える時には、本当に皆で力を合わせて仲間を増やそうという機運の高まりを私も肌で感じました。これからは是非、我々行政と一緒にこの事業を進めていただきたいと思います。

(理事長)

只今、市長さんから温かい言葉、お祝いの言葉をいただきまして本当にありがとうございます。発足当時から今日に至るまで、本当に岐阜市から就業の機会をたくさんいただき、また、財政面でもご支援いただいて感謝しております。改めてお礼を申し上げます。

シルバーの立ち上がりについては、先ほど、市長さんからお話がありましたが、準備に入ったのが昭和 55 年です。その翌年の 1 月に設立し、その当時 128 人という会員の皆さんが力を合わせてスタートしました。ただ当時は、まだシルバー人材センターは、市民とか企業の皆さんにも認知度が低いということで、役員の皆さん方も大変ご苦労されたと思いますが、今でこそ本当にシルバーという名前が浸透してきたと思っています。

業務に関しては、当初はシルバーの会員であれば誰でもできるような単純な作業からスタートしたと思いますが、植木の剪定のように技術を要する業務も手掛けるようになって業務の幅が非常に広がってきました。それによって会員を増やさなければいけないし、いろんな事業にも対応できるようにということで随分と苦労されたと思っております。その甲斐があり、現在では会員も2,000人を超え、受注金額で申しますと7億円を超えるような大きな組織になったということです。

公益社団法人としての使命を果たすためにも、これから更に職員や会員の資質の向上に努めながら、社会貢献に一生懸命努めていきたいと思っておりますので、引き続き岐阜市の皆様のご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。

(委員長)

女性委員会は、まだ日が浅く発足したのは平成27年の7月です。最初の活動は、第1回シニアワークフェアで女性会員たちがJR岐阜駅の信長像のある広場で、五平餅とみたらし団子を売って盛り上げたと聞いております。

その後、メディアコスモスでシニアワークフェアが行われるようになってからは、その中のイベントの一つとして企画させていただきました。初めは会員から品物を集めてバザーを開催しましたが、それからは毎年ずっと小物作り体験講座を行ってきました。

私に関わったのは、平成元年の静電気ではこりを取るタコブラシ作りのときからですが、多くの方に来ていただきお茶を飲む暇もトイレに行く暇もないぐらい盛況でした。

去年は、皆さんから募ってエコバッグコンテストを開催させていただきましたが、とても好評でした。表彰式も行い、新聞にも載せていただきました。また、市長さんにもおいでいただきとてもうれしかったです。今年も、エコテープを使った籠を作っていたらこうと思っています。エコクラフトは、元々牛乳パックを再利用して作った物で、捨てないで再利用して作ります。去年に引き続き、今年も「SDGs」を考慮し、『エコ』をテーマにさ

せていただきます。これからもいろいろとご指導願います。

(市長)

こちらこそありがとうございます。

(司会)

それでは次に、さらなる会員の拡大に向けて、何かご提案があれば伺いたいと思います。

(委員長)



やはり女性会員を増やし、女性会員の就業率をあげていく事も重要だと思います。去年は、岐阜市から国勢調査の準備の仕事をいただき、ありがとうございました。

(市長)

その節は大変お世話になりました。

(委員長)

部屋中が書類で一杯になっているのを見た時、期日までに出来るか不安でした。初めはどのように行くか迷い、試行錯誤しましたが、だんだん調子が乗ってくると一気にはかどり期日までにできたので、本当にシルバーの皆さんの力ってすごいなと思いました。

また、春休みと夏休みの放課後児童クラブの仕事では、お子さんたちと触れ合うことで元気がもらえます。女性会員さん達に、いろんな仕事の紹介をする時のPRに使わせてもらっています。楽しさも実感としてお伝えできると思います。その他コンスタントにできる就業を見つけることも大事だと思っています。

それから、女性の集いを毎年2月頃に各地区で分かれて開催しております。内容は演奏会や講演会を行っています。お友達も誘っていただき、会員でない方もシルバーに馴染んでいただけるような機会として、6年間開催してきました。今のところは、こういった形で宣伝して拡大していくしかありませんが、また、市からもお仕事をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(市長)

ありがとうございます。

先ほど、お伺いしました岐阜市の放課後児童クラブですが、このコロナ禍で柔軟に運営していく必要がある中で、シルバー人材センターの皆さんに支えていただきありがとうございます。

女性という観点ですけれども、既に社会の中では、女性活躍という言葉が浸透しています。今後も、皆さんの理解が進んでいけば、わざわざ女性活躍と言わなくても、男性も女性もそれぞれが持つておられる経験や能力を発揮して社会の中で貢献していける理想の社会になると思います。

そうした中、女性会員拡大には二つポイントがあると考えています。一つは、女性はコミュニティを大事にし、コミュニケーションが得意な方が多くいると感じています。そこで、女性のコミュニティをシルバー人材センターの中で更に増やしていけると、「そこに自分も参加したいよね、そこでお話するのが楽しいよね」となり、入会のきっかけになるのではないかと思います。

今は、男性会員の方が少し多いということですが女性会員の皆さんも非常にお元気でいらっしゃるし、健康寿命も平均寿命も女性の方が長いので、長く活躍していただけるのではないかと考えています。

もう一つは、女性あるいは高齢者の方に限らずですが、働き始めるにあたって、いきなりフルタイムで働くというと、どうしても抵抗や不安を感じられる方が多くいらっしゃると思います。ですから、仕事を体験する機会などの助走期間を設けて「あっ、これなら大丈夫だ。きちんとシルバー人材センターで仕事をやっていけるな」という自信をつけていただいた上で、実際に就業していただく。これは、例えば障がいのある方にもそのような仕組みがありますし、子育て等のために一旦現場を離れられた方が、社会に復帰していく時にもそういう仕組みがあります。工夫をされながらシルバー人材センターの中でスキームを作ってくださいといいと思います。

(理事長)

近い将来、団塊の世代の方たちが一人暮らしとか高齢者だけの世帯が増えてきて、介護支援や生

活支援、こういった需要が増えてくるとなれば女性ならではの仕事がありますので、やはり女性の会員拡大というのは大事だと思っています。

(司会)

続きまして、シルバー人材センターが、より魅力ある団体になるにはどうしたらよいのかお伺いしたいと思います。

(理事長)



まず、最初に一般の市民あるいは企業から見てシルバーが信頼できて、満足していただける仕事をしていくことによって、シルバーの魅力がアップすると思います。利用者

に対して満足していただけるよう職員や会員のスキルアップを図る研修をこれからも続けていこうという思いがあります。

もう一つは、会員自身がシルバーに入って良かったなという、そのやはり生きがいですね。シルバーの生きがい、それから喜び、こういったことを実感できるようなシルバーにしていくということが大事だなと、こんな思いでございます。

昨年策定した第2次中長期基本計画の中に、お客様良し、地域良し、会員良し、センター良しという「四方良しで社会を担う」という基本理念を掲げました。

また、設立40周年ということでシンボルマークとキャッチフレーズを作りましたので、それをうまく使いながらシルバーの魅力を発信していくことで魅力ある団体にしていきたいと思っています。

(市長)

私は、二つあると思っています。一つは、会員の皆さんのニーズを把握し、それに応えられる業種のラインナップを用意することや、新しい業種領域を開拓していくことだと思います。

もう一つは、シルバー人材センターが、会員同士あるいは会員と地域が繋がり合える、多様なコミュニティの場を作っていくことです。

私は、自治会や老人クラブなどの地縁型のコミュニティももちろん大切に、行政としてはしっかり

守っていく必要があると考えています。

一方で、共通の趣味や目的をもつ高齢者の方が、活動を通じて生きがいや楽しみを感じられる目的型のコミュニティ、例えばサークル活動なども大切であると感じております。

シルバー人材センターでも、こうしたサークル活動をいろいろと検討されてはいかがでしょう。

(理事長)

コミュニティの輪の広げ方ですね。これもまた努力していこうと思います。

(司 会)

それでは、次に50周年に向けて何が期待されるのかを伺いたいと思います。

(理事長)

岐阜市シルバー人材センターの会員の平均年齢が74.8歳と非常に高齢化してきています。そして、改正高年齢者雇用安定法により70歳まで企業で働くことになっていく、これは、法律自体は非常にいいことです。しかし、当シルバーにとってみると少しでも若い人に入っていたきたいと思っておりますが、高齢化してきた上に新しく入ってこられる方は、70歳を過ぎてから入られるということになって非常に厳しいなという思いがします。

さらには、国の政策で人手不足を補うため、外国人労働者をかなり日本に取り入れているということもシルバーを圧迫するような状況になっており、シルバーの環境は、厳しいものだという認識をしております。

そういったことを考えますと、これからのシルバーの仕事は、ただ待つだけでは駄目だと、やはりこちらから仕事を作り出さなければいけないということで、実は今年の3月にITに非常に詳しい人達のグループを作りました。このようにして、50周年に向け高齢者雇用の取組みについては、シルバー人材センター自らが仕事を作り出し会員の雇用を拡大していくことで、就業の機会を増やしていきたいと考えています。

(委員長)

私は、「ちょっとだけやってみたら」という形で勧めていくことも大事なかと、今お話を聞いてい

て感じました。それと、もう一つは現在女性会員の割合は全体の4割と少ないです。50周年を迎える頃には、5割近くまで拡大していることを期待しています。

(市 長)

今、社会が大きく変化しています。その先頭にいるのは、DX（デジタルトランスフォーメーション）です。

国にデジタル庁ができ、今後、政府も自治体もDXが進んでいきます。大手企業もそうです。中小企業では、経営者の経営判断でDXが進んでいる企業もありますし、導入が難しい企業もありますが、デジタル技術は徐々に社会に浸透しインフラになろうかと思っております。

岐阜市でも高齢者の方にもデジタル技術に親しんでいただくため、高齢者向けのスマートフォン講座を開催しています。

そうした中、これからシルバー人材センターの会員になれる方は、既に会社などでデジタル技術に関わってきた方も多いと思っております。シルバー人材センターの業務もこうしたDXの時流をつかんで拡大していくことが大切ではないかと思っております。

(司 会)

最後に激励や意気込みについて一言ずつお願いします。

(市 長)

激励のメッセージということですが、私は、働くことを土台とする街づくりを考えております。全ての人にとって、働くことで経済的な糧を得るということは基本ですが、働くことによって自分自身の居場所や出番ができて、それが生きがいに繋がったり、あるいは感謝されることによって喜びを感じ、幸福感を得ることができると思っております。ですから、働くことは人生の土台になると考えています。

働くことを土台とする街をつくるため、今、私は、ワークダイバーシティをキーワードにしています。高齢者の方もそうですし、障がいのある方も、あるいは難病を抱えられている方、女性、外国人の

方、それらあらゆる方が働くことに容易にアクセスできるような社会を作っていくことをワークダイバーシティと言います。働き方の多様化ですので、フルタイムで朝から晩まで働くということだけではなく、ワークシェアリングで1日数時間でもいい。あるいは、障がいがある方は、1日15分でも、1週間に1日でもいいと、それぞれの経験や特性に応じて、それぞれが社会の中でモザイクのように、皆で支え合っている状況をこの街の中で作っていきたいと考えています。高齢者の方の人口における構成比率は非常に大きなものがありますので、高齢者の方がシルバー人材センターを通じて働いていただき、社会を支えていただけるというのは、私も大変期待しているところであります。これからも皆さんと一緒に高齢者の方の声を聴きながら取り組んでいきたいと思っております。

(委員長)

これからは、今想像している以上にDXが進んでいると思っております。これからも会員の皆さんが、

息子や孫たちから「スマホやパソコンをこんなに使えるなんて、すごいね!」と言われるようになっていくことを願っています。

(理事長)

アメリカの第16代大統領リンカーンの名言集の中に、人は40歳を過ぎたら自分の顔に責任を持つという言葉がありますが、丁度シルバーも40歳です。そろそろシルバーも市民、企業に愛され信頼も得て、地域になくってはならないシルバーを目指していきたいと思っております。市長さんからシルバーとの連携は、やはり大事だと心強いお話をいただき、私もそれに沿った形で是非、街づくりに貢献していきたいと思っておりますので引き続きご支援、ご指導をよろしくお願いたします。

(市長)

よろしくお願いたします。

(司会)

皆様、本日は、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

